

経営品質アセッサーフォーラム 年次総会

2007年6月14日

本日の議題

1. 2006年度活動実績
2. 2006年度活動総括
3. 2006年度会計報告
4. 2006年度監査報告
5. 2007年度活動計画
6. 会則改定
7. 2007年度役員選任

1. 2006年度活動実績

研究会開催実績

第1回 2006年9月12日(火) 参加人数 82名
テーマ : 会議診断で判明する組織のビョーキ(思考習慣病)
ーミニ演習付き あなたの思考習慣病がわかりますー
講師 : 門田 由貴子氏(有限会社エトス代表取締役)

第2回 2006年10月10日(火) 参加人数 89名
テーマ : お客様満足を追求するIBMのCSプログラムの実際
ーIBMの顧客満足度調査とその実践的活用方法ー
講師 : 下津 可知子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社)

第3回 2006年11月14日(火) 参加人数 23名
テーマ : 第一線社員の活躍からの組織風土改革
ーホッカイ流実践的組織風土の改革事例ー
講師 : 高崎 洋介氏(ホッカイエムアイシー株式会社)

第4回 2006年12月20日(水) 参加人数 57名
テーマ : 今アセッサーが期待される新たな役割と経営改革の実践に向けて
ー改革実践に向けてアセッサーが果たすべき重要なポイントー
講師 : 土屋 元彦氏(経営品質アセッサーフォーラム理事長)

第5回 2007年1月12日(金) 参加人数 27名
テーマ : お客様とのきずなを作る3つの方法
ー顧客との関係作りを進める経営手法ー
講師 : 中山 和義氏(中山産業株式会社 代表取締役)

研究会開催実績(続き)

第6回 2007年2月16日(金) 参加人数 76名
テーマ : 経営品質向上活動の仕組み
—顧客価値に基づく組織変革の取り組み—
講師 : 中山 真氏(松下電器産業株式会社経営企画グループ 経営品質推進室参事)

第7回 2007年3月15日(木) 参加人数 100名
テーマ : トヨタにおけるマネジメントの質の向上
—MASTの展開—
講師 : 湯沢 貞行氏(トヨタ自動車 TQM推進部 MASTGグループ長)

第8回 2007年4月19日(木) 参加人数 34名
テーマ : 武州ガスにおける組織改革
—経営品質をフレームワークとした組織改革—
講師 : 新井 勉氏(武州瓦斯 取締役企画部長)

第9回 2007年5月17日(木) 参加人数 52名
テーマ : 経営品質と思考プロセスのイノベーション
—論理的・合理的な思考プロセスの構築—
講師 : 飯久保 廣嗣氏(株式会社デシジョンシステム 代表取締役社長)

マガジン発行実績

■ 第10号 Winter2006 2006年12月発行
特集 「推進者の語る経営革新」
全64ページ

■ 第11号 Summer2007 2007年6月発行
特集 「経営革新の現場から」
全68ページ

- ・第11号から「アセッサーマガジン」の名称を、より実態を示し、受け入れられやすくするために、「実践！経営革新」に変更

交流活動実績

■JQAA通信

経営品質協議会認定セルフアセッサー全員へ研究会、マガジン、その他の情報を毎月発信。

月次JQAA通信：第72号(2006年6月)～第83号(2007年5月)

臨時JQAA通信：2006年6月、2006年9月、2006年12月

■JQAAホームページ (<http://www.jqac.com/jqaa/>)

トップページ関連では、必要の都度会則、役員名簿、年次総会案内、理事公募案内などを更新。更に、JQAA通信の発行に伴い、JQAA研究会や実践分科会の開催案内、開催実績の紹介、マガジンの内容紹介及びJQAA通信のバックナンバーを毎月更新。

2. 2006年度活動総括

研究会活動総括

「研究会および大学を統合し、アセッサーによる経営革新のための考え方・手法の習得と実践力の向上を目指す」とする今年度の活動方針に従って、各企業における、より具体的な経営革新運動に焦点を当て、研究会のテーマ設定および講師の選定に注力した。

その結果、前述したように合計9回の研究会を開催することが出来た。各回共、実際に企業で具体的な活動を展開する当事者もしくは責任ある立場にいらっしゃる方々を講師に迎えることが出来たので、参加頂いたセルフアセッサーの皆さんからは、大変参考になったとのご意見を頂いた。

出来るだけ多くの成功事例を紹介して行きたいという考えから、バラエティーに富んだ業種の企業紹介を企画したが、その結果、これまでなかなか実現しなかった松下電器産業殿やトヨタ自動車殿という著名な企業からも講師の参加を頂いた。流石にこういった著名企業の経営革新には多くのセルフアセッサーが高い関心を寄せ、沢山の参加者があった。

講師からの一方的な説明だけで終わる研究会から脱皮しようと、講演終了後出来るだけ多くの質問を受けるといった姿勢を打ち出したが、残念ながらこれまでのところ、必ずしも活発なQ&Aがやりとりされるという結果になっていない。しかし今後も可能な限り「双方向の研究会」というスタイルを目指してゆきたいと考える。

これまで研究会毎に実施してきたアンケートからの情報も次第に量が増え、参加者の声を整理することにより、多くのヒントが得られるようになった。情報分析の精度を上げ、より参加者の共感をえられる研究会を模索して行きたいと考える。

出版活動総括

セルフアセッサーのための「情報誌」として、アセッサーの役に立つ情報の提供に務めた。

今年度は特に「経営革新を推進する実践活動事例」に焦点を当て、各種組織における革新活動の事例紹介を大幅に増やす編集方針を執った。その方針の一環として、執筆者の層拡大が必要であり、経営革新実践者の掘り起こしを狙って、アセッサーからの投稿も呼びかけ、数編を採用した。

なお、情報誌として充実させるために、事例紹介以外にも各種手法・ノウハウ、考え方の紹介についても、連載化など改善を加えながら、比率を落としながら継続して紹介して来た。第11号からタイトルを「実践！経営革新」に変更しデザインを刷新した。

アセッサージャーナル今後の課題

- ・執筆者の多様化。執筆者に関する情報収集の拡大、準備の早期化。
- ・発行部数の拡大に努め、事業の赤字を改善する。
- ・読者の満足度調査の実施。

交流活動総括

メーリングリスト開設

実践分科会、交流活動、マガジン公募等のために、アセッサーが投稿できる環境作りを行った。

実践分科会活動総括

経営改革の実践に向け、参加メンバーが具体的事例をもとに相互研鑽することを狙いに、分科会活動を試験的に実施して来た

毎回生きた題材をもとに活発な討議が行われ、相互理解の促進や経営革新実践に向けての多くの気づきが得られた。

試験的活動の結果、「経営改革の実践活動」は、セルフアセッサーからの高いニーズがあると判断され、今後本格的な取り組みが必要と判断される。

本分科会への参加企業においては、大なり小なり構造改革が推進されつつあり、アセッサーは成果を出す事を求められている。「アセスメントの実施」から「改革実践」が強く求められていると言える。

3. 2006年度会計報告

2006年度 経営品質アセッサーの会 会計報告書

平成18年6月1日から平成19年5月31日まで

(単位:円)

1. 収入の部

①アセッサーマガジン代	740,750
②研究会・参加費(総会含め計10回)	1,667,000
③雑収入(受け取り利息他)	60,768
計	2,468,518

2. 支出の部

①アセッサーマガジン作成費(原稿料含む)	462,578
②アセッサーマガジン印刷費	781,800
③会場利用料(月例会・総会・理事会・総会懇親費など)	996,045
④講師謝礼(月例会・総会など)	224,060
⑤振込手数料	11,655
⑥その他雑費(コピー代・送料・事務用品、役員経費)	141,172
計	2,617,310

3. 前期からの繰越金 1,630,887

4. 残高 1,482,095

4. 2006年度監查報告

監査報告書

2007年6月14日

経営品質アセッサーフォーラム

理事長 土屋 元彦 様

監 事

市川 庄司

伊藤 良之



2006年度会計監査

当監事は、経営品質アセッサーフォーラムの規約にもとづき、2006年度（期間2006年6月1日 — 2007年5月31日）における、同フォーラム活動に関わる会計報告書を監査した結果、会計処理は公正と認められる手続きによって行われている事を確認いたしましたので、その旨、監査報告いたします。

以 上

5. 2007年度活動計画

2007年度活動の基本的考え方

06年度の活動を振り返り、その中で提起された今後の課題を踏まえて07年度活動に対する基本的考え方を示す。

1. アセッサーが経営革新に対して有効に機能するには学習と実践が必須であるとの考えから、試験的に実施した「実践分科会」を本格的な活動として展開する。
2. そこで、研究活動を、学習部会(今までの月例研究会活動)と実践部会の二つの部会体制にする。
3. 出版活動は、昨年度の方針を基本的に踏襲する。
4. 交流活動は、JQAA設立当初の目的であった交流は既に役割を果たしたと認識して廃止する。

2007年度 活動計画

学習部会

セルフアセッサーのニーズ分析により、研究活動は以下の2つの方向を目指したものとし、研究部会として活動を展開する。

- ①成功事例研究
 - ②セルフアセッサーの革新能力向上に役立つ手法の学習
- 経営革新を成功に導くポイントの研究(上記2大方針の補助的位置付け)

実践部会

試験的に実施して来た「実践分科会」を実践部会に昇格させ、研究活動の一つとして、本格的な活動を展開する。

- ①実践部会を研究活動の一部と位置づけ、担当理事を置く。
- ②JQAAにおける「経営改革実践活動」として定着化を目指す。
- ③セルフアセッサーに対する実践的活動支援を展開する。

出版活動

昨年度の方針を基本的に踏襲し、以下の活動を展開する。

- ①発行部数拡大の為の施策検討
- ②読者の満足度を把握する仕組みの検討および結果の編集への反映
- ③JQAA理事全員が関わる形でのジャーナル編集作業

6. 会則改定

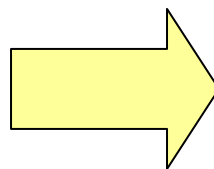
1. 第3条に関わるもの

(活動)

第3条 前条の目的を達成するために、この会は次の活動を行う。

現在

- (1) 交流活動
- (2) 出版活動
- (3) 研究活動
- (4) 教育活動
- (5) 運営活動



改定後

- (1) 研究活動
- (2) 出版活動
- (3) 教育活動
- (4) 運営活動

理由: 交流活動は所期の目的を果たしたと考えられるため。

2. 部会設置に関わるもの

附則

3、研究活動として、学習部会と実践部会を置く

7. 2007年度 役員選任

役員退任・新任案

退任する理事

真下 信雄	副理事長
中井 克彦	運営
赤津 康夫	研究
門田 由貴子	研究
田丸 重男	出版

退任する監事

市川 庄司
伊藤 良之

新理事候補

雪竹 泰三
熊巳 弘一
小楠 高広
新家 修
日下部 修一

新監事候補

真下 信雄
中井 克彦

以上

2007年度新体制案

理事長	土屋元彦
副理事長	渡辺和眞、 雪竹泰三
理事	
研究(学習部会)	<u>永井洋子</u> 、中西俊秀、下津可知子 高崎洋介、 日下部修一
// (実践部会)	熊巳弘一
出版	<u>矢野敬人</u> 、中山 博、 新家 修
運営	<u>内藤貞人</u> 、澤田美樹子、 小楠高広
監事	中井克彦 、 真下信雄
編集部会	<u>黒瀬 晋</u> 、大林純子

下線:リーダー 赤字:理事/監事候補